

教育課程の特徴

1. 看護学科の教育理念

看護学科は、大学の基本理念である「平和・自由・進歩」を踏まえ、生命の尊厳と人権を尊重し、擁護する倫理観と豊かな幅広い人間性を培うとともに、**その人がその人らしく生きられるようにヒューマンケアを提供できる高度医療を担う質の高い看護職者を育成すること**を目的としている。また、過疎がすすむ沖縄県北部の活性化をはかるために保健・医療・福祉人材の養成という地域のニーズをふまえ、**地域社会及び国際社会に貢献しうる実践能力のある健康支援人材を育成する。**

2. 看護学科の教育

看護学科は学生が主体（主人公）となる教育実践を目指し、学生自らが授業作りに参画する協働探求を中心とした学習、双方向型の教育、少人数教育を実践するためにゼミ、クラスワークを主体とした『教授－学習課程』を取り入れている。教育課程の編成の基本的な考え方は、**学生自らが学ぶ主体として成長していくための参画力を身につける『学生参画型看護教育』**である。具体的には、コーチング理論や協働学習理論をもとに、学生一人ひとりの個性を大事にするカードメソッドを教授法に応用している。

このような協働的探求をとおしてダイナミックに知識創造の「場」作りが学生の手によって営まれる。受身的な学習態度や一方向的な形式の授業ではなく、学生と教員が協働して授業を進めていく。学生の**協働探求力、自己教育力、自己評価力**の育成を教育目標に位置づけて、教養教育科目の『教養演習』をコアカリキュラムとして教養教育を編成する。

学生参画型看護教育の特徴

		一年次	二年次	三年次	四年次
目標		参画型看護教育の基本理念、及び学習方法の取得と評価	参画型看護教育の学習方法の活用と評価	参画型看護教育の学習方法の発展と評価	参画型看護教育を活用したキャリア開発と評価
自己教育力を育む3つの対話	①自己との対話 看護キャリア開発	教養演習Ⅰ 教養演習Ⅱ		看護研究方法 看護実践研究の自主企画	卒業研究 看護実践研究の自主企画
		自分自身との対話を通して自己理解を深め、看護職としてのキャリア開発を行う。			
	②他者との対話 参画型授業開発				
	授業・学内行事などを通じて仲間・教員・職員と対話し、自らがカリキュラム開発を行う。				
③地域との対話 参画型看護実践	ケアリング文化実習 基礎看護実習Ⅰ	基礎看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅰ	小児看護実習 母性看護実習 成人看護実習Ⅱ 高齢者看護実習 精神看護実習 在宅ケア実習	成人看護実習Ⅰ 総合看護実習	公衆衛生看護実習Ⅱ 公衆衛生看護実習Ⅲ
	フィールド活動、看護実習を通して地域への関心を深めケア文化の開発を行う。				

3. 教育課程の編成方針

大学のカリキュラムは、教養教育と専門教育から構成されており、教養教育は専門教育を履修するための基礎となる重要な科目である。名桜大学が進めている教養教育は、「リベラルアーツの基本理念である、人間の心を解放し、心を自由にするることによって円満な人格形成をすること」であり、そのためには、専門教育の強化だけではなく、人文・社会・自然科学をも学ぶことにより、学問分野の広い視点から俯瞰的にものを見ることのできる人材育成を目指している。

1年次には、高校から大学への**学びの転換**を中心に、初年次教育として教養演習Ⅰ、教養演習Ⅱを位置づけ、大学における学習スキルを習得する。そのうえで、2年次、3年次、4年次と看護基礎教育を段階的に学び、看護師・保健師国家試験受験資格を取得することを目的としている。

看護学科の教育課程の実施にあたっては、厚生労働省の「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」による教育内容の規定と、大学設置基準等を踏まえた教育課程の編成が必要とされており、本学科では両者の規定に合わせて、さらに**協働探求力、自己教育力、自己評価力**の育成と高い専門性をもつ健康支援人材の育成という、本学科の特色を組み込んだ教育課程を編成している。

カリキュラムは、卒業要件 129 単位に対し「教養教育科目」が 28 単位 (21.7%)、「専門基礎教育科目」が 33 単位 (25.6%)、看護学の「専門教育科目」が 68 単位 (52.7%) で構成されている。

教養教育科目を量的に重視するとともに、専門基礎教育科目の枠組みを「人間の理解」、「健康の理解」、「環境の理解」に設定し、両者の関連性をもたせ、看護のパラダイムである「人間、健康、環境、看護」との整合性をもたせている。さらに専門教育科目は、4分野、9領域で構成されている。専門分野Ⅰとして「基礎看護」領域、専門分野Ⅱに「成人看護」、「母性看護」、「小児看護」、「高齢者看護」、「精神看護」の5領域を位置づけ、これらを統合して看護を総合的、発展的に学ぶ統合看護分野と、保健師教育分野を位置付けている。

4. 教育課程のすすめ方

『学生参画型看護教育』は、学生が自ら学ぶ主体として成長していくために、参画力を身につける体系化された教授法である。

『学生参画型看護教育』では、「自己との対話」「他者との対話（仲間、教員、職員との）」「地域社会との対話」をとおして「個の自立と成長」、「個の学習目標の達成」、「自己教育力の育成」を目指している。そのため、ゼミ単位、クラス単位、また学年全体での授業とさまざまな授業スタイルを取り入れ、特にゼミ活動を中心とした教養演習やケアリング文化実習では、学生が教員とともに授業を作り運営する形式をとっている。ゼミは6～7人、クラスは20人程で編成とし、授業内容に合わせて柔軟に運用している。そのことにより、学生個々の学習支援や生活支援がスムーズになり、学習時間の確保や試験前の学習に取り組む姿勢など、学習意欲の向上、学習継続への意欲などの効果が得られている。

5. 教育課程の展開

『学生参画型看護教育』の実践の特徴は以下の通りである。各年次の最後には、1年間の学びの評価を行い、課題についてはグループで話し合い、問題解決に向けた方法を協働探究する。また、各学年の前後期にクラス担当教員と個人面談を行う。

- 1年次では、本学における学習者としての基本的な心がまえや学習方法として、自己の学習目標を明確にし、クラス（ゼミ）活動の進め方についても話し合い、学生自らクラス活動を企画、運営する。
- 2年次では、自分自身のアイデンティティーの確立をめざして、将来のキャリアデザインを描く。クラスワークでは、クラス活動の進め方に関するアクションプランを立てて実践する。
- 3年次では、自分らしい専門性の獲得をめざして学習ガイダンスを学生自らが企画、運営し、3年次の学習目標を作成する。
- 4年次では、卒業後の進路の開拓をめざして学習ガイダンスを学生自らが企画、運営し、4年次の学習目標を作成するとともに、4年間の学びを評価し後輩へ伝承していくことを目標とする。

4年間のスケジュール

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
年間予定	入学式 履修ガイダンス 前期授業開始	スポーツ大会 新入生歓迎			期末試験	夏季休業 (約一ヶ月)	後期授業開始	名桜祭		冬期休業 (約二週間)	期末試験	春季休業 (約一ヶ月) 卒業式
1年次	オリエンテーション 教育研修		ケアリング文化実習		基礎看護実習Ⅰ							
2年次			教養演習Ⅰ									公衆衛生看護実習Ⅰ 基礎看護実習Ⅱ
3年次							臨床実習 (成人看護実習Ⅱ、高齢者看護実習、在宅ケア実習、小児看護実習、精神看護実習、母性看護実習)					キャリアアップセミナー 就職説明会 卒業研究
4年次			臨床実習 (成人看護実習Ⅰ・*公衆衛生看護実習Ⅱ *公衆衛生看護実習Ⅲ)			総合実習 (2週間)		卒業研究発表会			卒業式 国家試験受験 保健師・看護師 目標の総合評価 後期・大学生活 クラスワーク 個人面談	
共通課題	卒業研究(研究計画・倫理審査・調査実施・分析・論文作成・発表準備)				国家試験対策				個人面談 前期目標の設定 一年間の目標設定 目標設定・確認 大学生活における			
	個人面談 前期目標の設定 一年間の目標設定 目標設定・確認 大学生活における				個人面談 前期目標の設定 後期目標の評価 個人面談 クラスワーク				個人面談 後期目標の設定 後期目標の評価 個人面談 クラスワーク 次年度の目標設定			

*保健師課程選択コースのみ

授業科目の区分と卒業に必要な単位数

1. 授業科目の区分と分類

本学の授業科目は、**教養教育科目**、**専門基礎教育科目**、**専門教育科目**に区分されており、その中でさらに科目区分に分けている。卒業には、合計 129 単位以上の単位取得が必要であるが、**科目区分ごとに取らなければならない単位数**があり、**それぞれ所定の単位取得が出来なければ卒業することはできない。**

授業科目は、卒業するために**必ず修得する科目（必修科目）**と、指定された科目区分の中から**選択して修得する科目（選択科目）**に分類される。

「教養教育科目」

本学における学習に必要な最低限の知識と技能を身につけ、専門分野の授業内容を十分に吸収できる基礎学力を養成するための学習領域である。名城大学は総合大学であり、国際学群、人間健康学部の開講している科目を選択的に履修でき、看護学の学習に必要な科目を履修できる利点を持っている。（詳細は P1～P18 教養教育について参照）

「専門基礎教育科目」

専門科目である「看護学」の基礎となる知識を学ぶ領域である。この領域には、「人間の理解」「健康の理解」「環境の理解」の科目区分が設定され、人間を身体的、社会的、精神的、発達論的な諸側面から理解する。また、健康の維持・増進、予防から疾病治療・回復にいたる各健康レベルの理解、人間を取り巻く環境、人間と環境との関わりについて、諸科学・諸現象から理解できるように編成している。（詳細は P73～P76 専門基礎教育科目について参照）

「専門教育科目」

看護学の理解と看護実践能力を培い、専門職者としての基礎を学習する領域である。この領域の専門科目は専門基礎科目を踏まえて、学期ごと、年次ごとに履修が進められるよう配置し、4年次終了時には看護師国家試験受験資格が確実に取得できるように編成している。（詳細は P77～P83 専門教育科目について参照）



2. 卒業に必要な単位数

卒業の判定に当たっては、学則で定めた基準による所定の単位を取得する必要がある。人間健康学部看護学科の卒業に必要な単位数（看護師国家試験受験資格取得に必要な単位数）は次のとおりである。

表1. 卒業要件

区分	科目区分	必修	選択	卒業に必要な単位	小計	
教養教育科目	共通コア科目	アカデミックスキル科目	8	0	8 単位以上	28 単位以上
		ライフデザイン科目	2	0	2 単位以上	
		思想と論理科目	0	2	2 単位以上	
		沖縄理解科目	0	2	2 単位以上	
		健康・スポーツ科目	0	2	2 単位以上	
	共通選択	外国語科目	2	2	4 単位以上	
		国際理解	0	2	8(統計学のみ必修)	
		人文科学	0	2		
		社会科学	0	2		
		自然科学	2	0		
専門基礎	人間理解	10	0	10 単位以上		33 単位以上
健康理解	14	0	14 単位以上			
環境理解	9	0	9 単位以上			
専門教育科目	専門分野Ⅰ	基礎看護	13	0	13 単位以上	68 単位以上
	専門分野Ⅱ	成人看護	13	0	13 単位以上	
		母性看護	6	0	6 単位以上	
		小児看護	6	0	6 単位以上	
		高齢者看護	6	0	6 単位以上	
		精神看護	6	0	6 単位以上	
	統合分野	在宅看護	3	0	3 単位以上	
		総合看護	12	0	12 単位以上	
保健師教育分野	公衆衛生看護	3	0	3 単位以上		
卒業に必要な単位		115	14	129 単位以上	129 単位以上	

